



森ノ宮医療大学

平成23年4月、森ノ宮医療大学も創立5年目を迎え、廣橋賢次初代学長の退任にともない公選が行われ、第二代学長に荻原俊男先生が就任されました。

新たなステージを歩み出した森ノ宮医療大学の更なる発展を

このたび、森ノ宮医療大学第二代学長に就任しました荻原俊男でございます。

伝統ある学校法人 森ノ宮医療学園を基盤として設立された森ノ宮医療大学も完成年度を終え、さらなる発展に向かおうとしております。平成23年度からは看護学科が新設され、大阪府下における中核病院を中心とした多彩な連携病院の確保により、社会との繋がりをさらに深めた魅力ある大学となりました。既存の鍼灸学科・理学療法学科との三位一体教育により、幅広い知識・教養・多様性を有し、思いやり豊かな医療人を輩出するため、大学の更なる充実を図る所存でございます。また更に研究面でも大学院が新たに設置され、教育と研究の両輪が動き出そうとしております。

このように、今まさに森ノ宮医療大学は第2ステージに歩を進めようとしています。この飛躍は、科学技術の革新的進歩・社会的価値観の変動・超高齢化社会の中で多様性を増している保健医療にマッチした大学の進化と言えるでしょう。学長就任にあたり、新生森ノ宮医療大学の発展に寄与できる喜びと重責を感じている次第でございます。

優れた医療人養成には、医学的知識・医療技術・科学的思考を習得させる必要は言うまでもありませんが、それに加え、病と闘う患者さまへの全人的医療の実践には、幅広い教養とそれを根幹に有する豊かな人間性、生命を預かる職業人としての

責任感を育てることも欠かせません。Medical knowledge・Medical technique・Liberal arts・Humanity・Hospitality……これらをしっかりと教育し、他者への奉仕の精神を持つ品位ある医療人を養成し、医療大学としての社会的使命を果たしたいと考えております。

森ノ宮医療大学には東西医療の融合という大きな教育的特色があります。東洋医学領域では現代科学を取り入れたEBM(科学的根拠)を有する補完医療・代替医療の可能性を探り、従来の伝統的経験医療を超えた、いわば進化する伝統を目指すことができます。また看護学科新設により幅が広がった西洋医学領域では、日進月歩である現代医学に遅れを取ることなく学び、東洋医学の概念にも触れることで幅広い視点を持つことができます。

このように高いポテンシャルを持つつ新たなステージを歩み出した森ノ宮医療大学の更なる発展に向け、高い志をもって尽力してまいりたいと思っております。森ノ宮医療学園校友会の皆さまのご指導ご支援を何卒お願い申し上げます。



学長 荻原 俊男 先生

平成23年4月 荻原 俊男

● プロフィール

- 1944年生まれ
- 1968年 3月 大阪大学医学部卒業
- 1970年 5月 大阪府立成人病センター調査部
- 1974年 1月 米国アリゾナ大学内科研究員
- 1976年 6月 大阪大学助手、老年病医学講座(第四内科)
- 1981年 8月 同 講師
- 1984年 5月 同 助教授
- 1988年12月 同 教授(現 大学院老年・腎臓内科講座)
- 2004年 4月 大阪大学医学部附属病院病院長
- 2005年 4月 大阪大学総長補佐
- 2007年 4月 大阪大学名誉教授、大阪府立急性期・総合医療センター院長

● 主な学会活動歴

日本老年医学会理事、日本老年学会理事、高血圧学会元理事(理事長2002.4~2004.3)、心血管内分泌代謝学会元理事(理事長2003.10~2005.9)、日本臨床薬理学会元理事、臨床分子医学会元理事、遺伝子診療学会理事、SHR学会理事、内科学会功労会員、国際高血圧学会ISH(理事1998~2006、副理事長2004~2006)、米国Hypertension Research Council, AHA, Fellow、米国Endocrine Society名譽会員

● 学会長

日本心血管内分泌代謝学会総会(2000)、日本老年医学会(2001)、日本高血圧学会(2001)、日本心臓血管・動物質学会(2003)、日本遺伝子診療学会(2003)、国際高血圧学会ISH(2006)、日本老年医学会近畿地方会(1990)、日本老年学会(2013)

● 受賞

高峰譲吉賞、岡本国際賞